

令和2年第1回岩国市議会定例会会議録（第1号）

○8番（武田伊佐雄君） 8番 憲政会の武田伊佐雄です。通告に従い一般質問を行います。

1、施政方針について。

（1）高齢者が安心して生活できる環境づくりについて伺います。

これまでの長寿支援タクシー料金助成事業を見直し、高齢者生き生きサポート事業が新規事業として計上されております。さきの市長選挙でも福田市長が政策の一つとして訴えられてきたことから、対象となる市民の方々は大きい期待されている事業ではないかと考えております。その一方で、バス会社だけでなくタクシー会社からも運転手不足の声を聞きます。運転手確保に向けて、事業者との協議はどのようになされているのかお聞かせください。

また、高齢者が安心して生活できる環境づくりに医療体制の堅持は欠かせないと考えます。特に、本市において救急医療の体制が脆弱な状況にあることは否めません。これらの課題は高齢者に限ったことではなく、これまでにも質問してきたことではありますが、医師の確保についてはどのような状況なのかお示しください。

（2）教育環境の充実について伺います。

プールや洋式トイレの整備については、これまでも岩国市PTA連合会から長年にわたり陳情が繰り返されてきた経緯もございます。トイレの洋式化については、これまでの教育民生常任委員会においても、多額の改修費が必要になるとの説明がありました。プールについては、老朽化による改修や温暖化対策にも苦慮されている状況にある中で、多くの地域で児童数・生徒数の減少がとまらないという課題も抱えています。岩国市立学校配置計画や現在策定中の岩国市学校施設長寿命化計画との整合性を図りながら、どのくらいの期間をもって本市の学校施設整備が行われるのか見解を伺います。

（3）中山間地域の振興について伺います。

岩国市中山間地域振興基本計画には、中山間地域の基幹産業である農林水産業の重要性が述べられております。耕作放棄地の解消と新規就農者支援を目的として、農地情報の集積についてこれまでも質問してまいりました。現在の進捗状況と今後の見通しについてお示しください。

また、地域の担い手の確保には、若者などのU J Iターンによる定住促進の体制を整える必要性を述べられていますが、生活インフラには通信関係も含まれています。今やインターネットのない場所に若者が移住してくることは考えられない時代です。

さらに、次世代通信規格を利用した車の自動運転については、高齢者が運転免許証を返納後に利用できる公共交通の手段としても期待しているところです。国の新年度予算において、次世代通信規格「5G」を離島や山間部でも利用できるよう、民間事業者が整備に乗り出さない地域の市町村を対象に国が財政支援する方針があるようですが、中山間地域における通信網の整備について本市の見解を伺います。

2、岩国市民文化会館について。

（1）岩国市文化芸術振興財団による管理運営の効果について伺います。

音響設備の充実やゆとりある座席、機材の搬入にも配慮されるなど大幅なリニューアルがなされ、より一層市民の利用が期待できる施設となりました。さまざまなイベントが企画され、市民が文化・芸術に触れる機会はふえているのですが、その一方で、市民文化活動の拠点としては利用頻度が下がっているのではないかと危惧しております。週末に市民文化会館を訪れても人けがないことや、ホームページのスケジュールを見ても市民の利用状況が減ったように感じます。公益財団法人岩国市文化芸術

振興財団による市民文化会館の指定管理が始まり1年半が経過しましたが、客観的に判断するために、市民の利用状況がどのようになっているのかお示してください。

(2) 市民に親しまれるための施設運営について伺います。

昭和54年4月に供用開始された市民会館の建設以前は、体育館で成人式などの大きな行事は行われていました。市制30周年事業として公約されながらも、なかなか実現されない文化会館の早期建設のためには多くの市民団体による活動が行われました。昭和46年11月、岩国市連合青年団により岩国駅前で署名活動が行われました。その後、青年団体や文化団体を初めとした多くの団体が参加した模擬市議会を経て、岩国市民文化会館建設促進協議会が昭和47年5月に設立されました。協議会の主な活動として、自動車パレードやこのような「市民文化会館建設を！」という合い言葉が入ったステッカーを作成して市民に建設促進の参加を呼びかけ——先ほどのステッカーではちょっとわかりにくいので、拡大したものがこういうデザインになっております。また、署名活動では1万5,350人の署名を集めて市に提出されました。10円募金を行い、浄財21万622円を市に寄附されるなど、精力的に早期建設を訴えられておられました。今ではこのような経緯を御存じだった職員の方々の多くが定年退職を迎えられるほど月日は流れていっております。

ことしの成人式も山口県民文化ホールいわくにで開催されました。市民の文化活動の拠点として切望されて建設された市民文化会館は、現在、市民に親しまれる運営がなされているのでしょうか。

先ほど触れましたホームページについても、市民文化会館のホームページと岩国市文化芸術振興財団のホームページがよく似ているために、市民文化会館の公演情報を確認するつもりが、岩国市文化芸術振興財団のホームページ内をさまよっていたこともあります。また、施設を予約する目的で空き状況を確認するにも別のサイトに飛ばされ、時間帯によってはサービス時間外という文字が出てきて、施設の空き状況が確認できないこともあります。本当に利用者目線で作成されているのでしょうか。改めてお尋ねします。

以上で、壇上からの質問を終わります。

○市長（福田良彦君） それでは、武田議員の御質問の第2点目の岩国市民文化会館についてお答えいたします。

まず、(1) 岩国市文化芸術振興財団による管理運営の効果についてであります。岩国市民会館は、昭和54年4月の開館以来、本市の文化芸術活動の拠点施設として多くの皆様に御利用いただいていた一方、建設から約40年が経過し、施設の耐震性能の確保やバリアフリー化、多様化する利用ニーズに対応した設備の更新などが課題となっております。

こうした課題の解決に向けて、平成29年3月から耐震補強・大規模リニューアル工事に着手し、平成30年7月に名称も新たに岩国市民文化会館として再スタートしたところでございます。

リニューアルした岩国市民文化会館は、平成28年3月に策定した岩国市文化芸術振興プランにおいて、市民や文化芸術団体が日常的に自主的な活動を行う拠点施設として位置づけております。

リニューアル後の市民文化会館の管理運営については、文化芸術振興プランに基づき、文化芸術振興事業や創造的な事業を展開することにより、本市の文化芸術活動の牽引役として期待できることから、公益財団法人岩国市文化芸術振興財団を指定管理者として行っております。

利用状況につきましては、リニューアル前の平成27年度の利用率が46.7%であり、リニューアル後の平成30年9月から平成31年3月までの利用率が34.7%となっております。本年度の2月までの利用率は42.6%となっており、市民文化会館の休館中に他の施設を利用されていた方々が再び利用され始めているものと考えております。

こうした状況の中、リニューアル後の市民文化会館をさらに安心・安全で快適にご利用していただけるよう、館内に意見箱を設置し、来館者からの声を聞きながら、その都度、必要な改善を図っています。そのほかにも、施設利用者を対象としたアンケート調査を初め、コンサートなどの公演ごとにもアンケート調査を実施し、施設運営に加え、実施事業に対する利用者の意見と要望の把握に努めているところでございます。

今後も、利用者のニーズを踏まえつつ、新たに採用した居室ごとの空調システムやエスカレーターの新設による利便性の向上など、生まれ変わった市民文化会館の魅力をしっかりとPRしてまいります。

市としましては、こうした取り組みを通じ、これまで以上に年齢、性別、障害の有無にかかわらず、市民の皆様を初め、企業や各種団体等にも幅広く利活用される施設となるよう努めてまいります。

次に、(2) 市民に親しまれるための施設運営についてであります。リニューアルした平成30年度に記念事業として「池辺晋一郎&N響団友オーケストラ」と「佐藤しのぶソプラノリサイタル」を開催し、主に成人の方を中心に多くの市民の皆様にご来場いただきました。

また、リニューアルから1年を迎えた昨年8月には、文化芸術振興プランの重点プロジェクトであります「未来へはばたく子供夢プロジェクト」に沿って、親子で楽しむことのできる「絵本deクラシック」を開催しました。大ホールのゆとりある客席で、乳幼児や小学生のお子様を連れた若い世代の御家族が、リラックスしながら質の高い芸術を鑑賞するよい機会となりました。

さらに、文化芸術振興財団の主催・共催によるコンサート、文化関係団体が主催される展覧会、コンサートなどを通じて、市民文化会館は多くの市民の皆様にご親しまれております。

議員御指摘の市民文化会館のホームページの構成については、御利用を検討していただく皆様に、まずは各施設の規模等をお知らせするとの考えから、フロアガイド、施設利用案内から始まり、その次に催し物の御案内となっております。また、「文化芸術振興財団のページか市民文化会館のページなのか見分けがつかない」「必要な情報を得るまでに多くのページを見なければならぬ」といった御意見に対しましては、見やすく、また使いやすいウェブサイトになるよう努めてまいります。

今後も、市民の皆様を踏まえ、市民文化会館の特性を生かした文化芸術の鑑賞・参加・創造の機会の充実に向けた事業展開と、文化芸術の裾野を広げ、交流を促進するための情報発信の充実にも取り組んでまいります。

市民会館建設以前は、成人式を初め、大きな行事が体育館で行われていたことから、「文化芸術活動や市民活動の場を本市にも」と、市民会館の建設の実現に至るまでに当時の市民の皆様が長年にわたり苦勞してこられたというふうにご伺っております。

市としましては、昭和54年に「大空に向かって躍進を」とオープンした市民会館に対する当時の市民の皆様を継承し、これまで以上に市民や文化関係団体が親しみを持って利用し、そして交流できるよう、さまざまな施策を実施してまいりますので、よろしくお願いいたします。

○副市長(杉岡 匡君) 第1点目の施政方針についての(1)と(3)についてお答えいたします。

まず、(1) 高齢者が安心して生活できる環境づくりについてお答えいたします。

本市では、高齢者の生活を支える移動手段を確保するために、現行の長寿支援タクシー料金助成制度を見直し、令和2年10月から新たに「高齢者活き行きサポート事業」を実施いたします。

本事業を実施するに当たり、現行制度の課題解決のために、長寿支援タクシー料金助成制度の改正に向けた検討会を開催し、さまざまな立場の方から御意見を伺うため、地域交通や地域福祉の学識経験者、各地域の連合自治会長、タクシー協会など、有識者や地域の実情に精通した方に御参加をいただきました。

検討会では、タクシー事業者の現状として、運転手の確保が困難で運営は厳しい状況であるとの報告があり、委員の皆様からは、「制度の見直しで対象者がふえた場合にタクシー事業者が対応できるのか」「対象者は移動の支援が必要な人に絞り込む必要があるのではないか」「交通体系全体の中で考え、タクシーと路線バスを組み合わせうまく利用することも大切である」等々の御意見があり、対象者は運転免許証を所持しない高齢者を対象として、年齢は75歳以上が適当である、距離要件を撤廃し地域差が生じないよう配慮する等の制度の見直しを図るよう意見集約がされました。

検討会の意見集約を踏まえ、市では、新制度を実施するに当たり、タクシー協会に対し制度説明を行い、お互いに体制づくりに向けて調整を進めているところでございます。タクシー協会では、各事業者に対して新制度を周知する機会を設けるなどの準備をしていると伺っております。

タクシー利用者の増加に伴う需要の拡大が、議員御指摘の運転手不足、ひいては運転手の待遇改善につながることを期待しているところでございます。事業開始後、一、二年後を目途に、タクシー協会を初め、各種団体に参加していただき事業効果を検証し、評価を行う予定としております。

市といたしましては、事業開始に当たり、タクシー事業者の御理解と御協力をいただきながら事業に関する調整を緊密に行い、高齢者の皆様にしっかり周知を行い、準備を進め、高齢者の外出をサポートすることで生活の支援と社会参加を促す制度となるよう取り組んでまいります。

次に、医師等の確保や育成支援についてお答えいたします。

全国的な地域偏在に伴う地方の医師不足が課題とされる中、国が定めた医師偏在指標を踏まえ、都道府県は医師多数区域、医師少数区域を設定し、今年度中に医師確保計画を策定し、地域の実情に応じた対策を講じることとされています。

令和元年7月現在の岩国・玖珂両医師会の会員数は、平成18年度に比べ、岩国市医師会が29人減少、玖珂医師会が19人減少、平均年齢は、岩国市医師会が62.6歳、玖珂医師会が62歳となっており、会員数の減少と高齢化が進行している状況でございます。

そのような中、第2次岩国市まち・ひと・しごと創生総合戦略において施策として掲げている医療環境の堅持の具体的な対策として、平成30年度から「研修医受入支援事業」を実施しております。本事業は、市内の研修医を受け入れることができる医療機関に対し、研修医の受け入れや指導医の養成に係る費用の一部を助成するもので、研修環境の充実により研修医を呼び込み、将来の本市の医師数の増加が図られるよう実施しているところでございます。

なお、令和2年度からは、新たに後期研修医も支援の対象に加えることとしており、さらに制度を拡充してまいります。

市といたしましては、山口県や医師会、岩国医療センター等関係機関と情報を共有し、意見交換等を行うなど、緊密に連携をとり、市民が安心して暮らせる医療環境を確立するため、今後も引き続き、開業医や勤務医の確保につながる新たな施策を検討してまいりたいと考えております。

次に、(3) 中山間地域の振興についてお答えいたします。

まず、農業の振興に関してですが、農業は中山間地域を支える主要な産業であり、農業の持つ多面的機能により、中山間地域の生活環境や自然環境が維持・保全されております。

このような中、耕作放棄地の増加など、農地の維持管理が重要な課題となっておりますが、農地の適正な利用に関しましては、農業委員会に農地利用最適化推進委員が設置され、農地の情報の収集に努めているところでございます。

農地の情報の把握状況につきましては、令和2年2月時点において、農地の耕作の状況や今後の管理に関する所有者の意向を把握できているものは、面積ベースでは47%であり、約半数の把握ができた

ところでございますが、筆ベースでは32%にとどまりました。

そこで、農地のデータについて調査・検討したところ、この把握率が低い要因は、調査対象となる農地の中に、農地転用により非農地となった土地や既に農地に返すことが困難となった耕作放棄地が含まれていることに加え、情報を把握しても有効な情報として使用されることのない農地、つまり農地の貸し借りがほとんど発生しない畑や狭小な農地が数多く含まれていることから、把握率が低くとどまっているものでございました。このことから、調査対象の農地を精査したところ、面積ベースでは67%、筆ベースでは65%の把握率となり、約3分の2の農地に関して情報の収集ができていたとの結果となりました。

今後は、調査対象の農地のうち、調査の終わっていない約3分の1の農地の情報把握について、戸別訪問による調査に加え、調査件数をふやすために郵送による調査を取り入れるなど、情報の収集に努め、1年後を目途に対象農地の情報把握を終えたいと考えております。

次に、中山間地域の振興のための情報インフラの整備についてでございますが、昨今のICT（情報通信技術）の急速な発展により、我々を取り巻く環境は大きく変化しつつあります。特に、今春、商用サービス開始予定の第5世代移動通信システム、いわゆる「5G」でございますが、農業、公共交通、医療、教育、産業など、幅広い分野での利活用が見込まれており、人口減少や高齢化等による人手不足が叫ばれている中山間地域においてこそ、その整備が期待されているものと認識しております。

国におかれましては、5Gを早期に全国展開できるよう、通信事業者への5G用周波数の割り当てに際し、従来の「人口カバー率」にかわり、新たに「基盤展開率」を評価指標とするなどして、都市部のみならず、中山間地域を含む地方部への5Gの整備促進を図ってまいります。

本市における5Gへの取り組みといたしましては、株式会社NTTドコモが提供するドコモ5Gオープンパートナープログラムへの参加や、山口県が開催する山口県5G研究会に担当職員を出席させるなどして情報収集を図っているところです。

また、本年2月に開催された山口県市長会の定例会議におきまして、5Gの早期サービス開始に向けた通信基盤の地方への整備について、国や県に要望を行う議案が承認されたところです。

さらに、今月末には、連携中枢都市圏形成に係る連携協約に基づき、仮称でございますが、広島広域都市圏ICT推進協議会の共同設置が予定をされておりましたが、こちらにつきましては、本日、コロナウイルスの関係で会議が延期となり、改めて期日が設定されるものと伺っております。市といたしましては、本協議会に参加することを予定しておりましたので、今後、協議会が再開される通知がありましたら積極的に参加したいと考えております。

本協議会は、5Gを初めとする先端技術の活用等に関する情報交換を行うことなどを目的としており、国や県、関係民間企業等にもオブザーバーとして参加いただく予定となっております。

今後におきましても、引き続き、さまざまな機会や手段を通じ、5Gに関する調査・研究や5Gの早期整備に向けた国や通信事業者への要望を行ってまいりたいと考えておりますので、よろしく願いいたします。

○教育長（守山敏晴君） 第1点目の施政方針についての（1）教育環境の充実についてお答えいたします。

教育委員会では、平成30年度から今年度末までの予定で、岩国市学校施設長寿命化計画を策定することとしております。この計画期間は40年間で予定しておりますが、学校環境、社会情勢の変化及び本市の財政状況に応じて5年ごとにチェック、10年ごとに見直しを行うこととしております。こうしたことから、まずは10年間の改修及び改築計画が滞りなく進むよう、計画の推進に取り組んでいくた

いと考えております。

トイレの洋式化につきましては、平成29年度から、小学校において、入学して間もない児童への影響を考慮し、低学年用のトイレを優先的に、小学校低学年トイレセミリフォーム事業としてトイレの洋式化を含んだ改修工事を進めております。

また、小・中学校ともに施設整備費の中で、修繕要望や特別な事情がある場合は、個別の対応を速やかに行っております。なお、多くの来客者が使用する教職員用トイレにつきましては、生徒も使用可能なものとして、男女一組ずつの洋式化を岩国市学校施設長寿命化計画との整合性を図りながら進めてまいります。

平成28年4月1日時点の洋式化率は17.5%で、全国平均の43.3%を下回っていますが、取り組みや計画の推進を着実に進めていくことで、10年から15年後には50%を超えることを目指しております。

現在、市内の各小・中学校においては、最低でも1つ以上の洋式トイレは設置されているのですが、設置数が十分ではなく、学校からの要望も多いことから、トイレの洋式化は重要かつ喫緊の課題であると捉えております。今後の整備につきましては、岩国市学校施設長寿命化計画において、改築工事や長寿命化改修工事を行う学校は、全体的なトイレの洋式化を行うため、洋式化率の大幅な向上を見込んでいるところです。トイレセミリフォーム事業に加えて、改築工事や長寿命化改修工事の優先度が後年になる学校につきましては、予算の状況を見ながら、1年当たり10基程度の洋式化を目指し、改善に努めてまいります。

プールの改修及び新築工事についてですが、プールの塗りかえ等の改修工事は平成20年度から年間1校から3校程度、プールの新築工事は平成26年度から毎年1校ずつ事業を進めてまいりました。したがって、要望等の対応が解消されてきたと考えております。

なお、学校施設全般につきましては、いよいよ岩国市学校施設長寿命化計画が完成しましたので、本格的に本計画に沿った改築や改修を進めてまいりたいと考えておりますので、よろしく願いいたします。

○8番（武田伊佐雄君） それでは、再質問を行います。

再質問を行う前に、先ほど、タクシー事業の件で答弁がありました。事業開始後、1年から2年後をめどに事業効果を検証し、評価を行う予定としておりますという答弁があったかと思うんですけど、これまでに、人材育成については、やはり経営感覚を持って行うというふうな答弁もあったように、1年から2年後をめどにというのは、事業効果を検証するにはちょっと時間がかかり過ぎかなと思うので、少なくとも小刻みに四半期ごとぐらいにはある程度見直しは、PDCAは回していただきたいかなと思いますので、提言させていただきます。

それでは、教育環境の充実について伺います。

先ほどの答弁で、学校のトイレの洋式化については、洋式化率は低いものの、各学校に最低1つは洋式トイレが整備してあることはわかりましたので、間もなく策定される岩国市学校施設長寿命化計画もあわせて進捗を注視していきたいと思っております。

では、これまでに質問してきた科学センターの整備についての進捗状況についてお聞かせください。

○都市開発部長（山中文寿君） 科学センターの進捗についての御質問でございますけれども、黒磯地区のまちづくりの中で検討を進めておりますので、まちづくり全体の中で御説明させていただきます。

岩国医療センターの跡地につきましては、現在、区域面積約9ヘクタールを対象に、総合的な福祉交流拠点の整備を目指しております。現在、基本設計を策定しているところでございます。

その主な施設の機能としては、総合的な福祉機能、科学センター機能、健康増進機能、ふれあい交流機能、これらの4つの機能のほかに、近年では激化する自然災害を踏まえまして、災害対応機能を加味した施設を考えております。

9ヘクタールの中央を流れる上浜川によりまして、北側——灘中学校側と、南側——中洋小学校側の大きく2つのエリアに分かれております。

北側のエリアにおきましては、各種スポーツやグラウンド・ゴルフなど多用途に利用できる広場を予定しております。また、医療施設用地もこちらの区域に確保することとしております。

南側の区域につきましては、ひな壇状の地形を生かしまして、山側からビオトープなどを設けた自然観察エリア、それから、その下側のエリアには、本まちづくりの中核施設となります約7,500平方メートル規模の屋内施設を配置することとしております。この施設は、福祉機能と科学センターの移転によりまして科学学習機能を有する複合施設でございます。

そして、海側でございますけれども、多様な交流イベントに利用できる交流エリアを予定しております。

今後のスケジュールでございますが、来年度から土木設計や建築設計を行いまして、順次工事に着手することとしております。完成時期につきましては、これまでどおりの令和7年度末の完成を目標に進めてまいりたいと考えているところでございます。

また、議員お尋ねの科学センターでございますけれども、これまで、科学センターの構成の概要を取りまとめまいりました。来年度からは全体スケジュールにあわせまして、岩国市の科学センター整備検討委員会におきまして、本市が目指すべき科学センターのあり方の具体を検討していくこととしております。

○8番（武田伊佐雄君） 次に、市民文化会館について伺います。

旧岩国市議会の平成10年9月定例会の一般質問において、当時の助役から、「市民会館は、県民文化ホールと違いましてその業務は会場の提供、いわゆる貸し館でございます」との答弁があります。現在は、岩国市文化芸術振興財団主催の事業が行われていますが、これは市民活動を圧迫していないのかお尋ねいたします。

○文化スポーツ担当部長（藤本浩志君） この自主事業につきましては、市民の皆様のニーズを取り入れながら、多様な文化・芸術を鑑賞し、参加し、創造できるような内容となるように計画しております。

また、開催時期につきましても、文化関係団体等の活動と重ならないように配慮しながら計画してまいります。

○8番（武田伊佐雄君） 利用者の快適性を求めるがゆえに座席数を減少したのは仕方のないことだとは思いますが、成人式が市民文化会館で開催できる見通しというのはいつごろになるのか、お示しくください。

○教育次長（重岡章夫君） 成人式が市民文化会館で開催できる見通しでございますが、今後、新成人の人数が減少し、現在の予測では3年後には市民文化会館での開催が可能になると考えております。

○8番（武田伊佐雄君） 今回の一般質問を行うに当たり、昭和48年ごろの旧岩国市議会の会議録等も参考にさせていただきましたし、当時、岩国市連合青年団として活動されていた方々からもお話を伺いました。

過去の経緯を知れば、本市の市民文化会館は、市民の、市民による、市民のための市政参加の象徴であると捉えております。当時の市民の思いを忘れずに、これからも市民文化会館の運営を行うべきだと考えますが、市長の思いをお聞かせください。

○市長（福田良彦君） 当時の広報いわくに——市報いわくににも、当時の「大空に向かって躍進、待望の市民会館、4月5日にオープン」という、こういったものもございますし、当時の青年団の方々——恐らく武田議員のお父様も青年団に入られて、非常に多くの方々とともに、市民を巻き込んでいろんな活動もしたり、そして寄附も集められたと、先ほど御紹介もございました。

この市民文化会館は、その当時の市民会館といささかも本来の趣旨は変わっていないと思います。されど、議員からも市民のためのという話でございましたが、まさにこの新しい岩国市民文化会館も市民の方々の文化活動の拠点になりますので、ぜひ親しみを持って、これからも利用してもらいたいというふうに思っておりますし、また、今、岩国市文化芸術振興財団のほうのお話を聞きますと、2月20日に岩国市の優秀文化賞という授賞式があったそうであります。これは小ホールでありました。その小・中学生の受賞者の中に、お一人、総合支援学校の生徒で車椅子の方がおられました。そして、これは財団のほうで、みずから昇降機をリースしてきて、そこで全ての子供たちがステージに上がって表彰を受けることができたということで、その子供、また学校のほうから感謝の手紙が届いたということも聞いております。

これからもそういった気配り、目配りもしながら、多くの方々にこの市民文化会館をぜひ活用してもらいたいと思っております。

また、個人会員、法人会員も募っているようでありますので、ぜひ多くの方々——議員も会員になっておられなかったら、ぜひ会員になってほしいということをお願いいたします。

○8番（武田伊佐雄君） 市民の思いを大切に市政運営がなされることを期待して、一般質問を終わります。